

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	尚綱学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ショウケイガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ(国内)
	学部・研究科等名	総合人間科学部
	担当教職員名・役職	玉田 真紀(教授)、會澤 まりえ(教授)、田島 裕之(教授)、川端 壮康(教授)、福井 真司(准教授)、中村 節子(進路就職課長)、岩崎 真弥(進路就職課)、里見 こずえ(進路就職課)、渡辺 徹(進路就職課)
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	59	
受入企業等数	51	
受入企業等名	以下のURLよりお進みいただき「インターンシップ概要(受入れお願いのリーフレット)」(PDFファイル)にてご確認ください。 http://www.shokei.jp/career/information/detail.php?p=61	
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年が選択可能なキャリア科目として設置している。早期に将来のキャリア形成に必要な課題と大学での学びの意義を自覚させる事が目的である。企業や自治体、商工会議所、公益財団法人等で、営業、販売、事務、生産、業務企画・運営など、通常業務補助を中心に就業体験を行っている。受入先は大手企業の県内支店もあるが、中小の地元企業も多く、また、卒業生が在職している企業の協力も得ている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学全学科2年対象のキャリア教育の選択科目であるが、3年でも選択可能としている。通年科目(前期10回授業、夏期研修5日、後期集中)であり、事前・事後の授業、夏期研修の全ての過程を充たすことで2単位修得となる。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	1.志望動機・目的を記載した登録票作成と、それに基づく教員との面談を実施。2.事前調査と研修先訪問を踏まえた報告会を行っている。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	報告書を作成し、全学教員、次年度学生、受入企業に配布し、成果を公開している。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	研修中に大学(進路就職課)と連絡が取れる体制を整えている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	前期10回の授業で実施。内容は、インターンシップ研修の目標と心構え、自己理解と志望動機の記述、教員と個別面談、社会の求めるマナー(考え方、接遇、メール、電話応対等)、事前訪問と書類作成(私のプロフィール、契約書、研修記録、事前報告書、保険等)、企業調査、事前調査発表会と参加者相互の情報交換、事前レポートの作成(志望動機、目標、企業調査・訪問結果)、研修報告書の記述形式と提出方法について。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修先で毎日記録した研修記録と研修先担当者のコメントを元に、所定の形式に従い報告原稿を作成し、データで9月に提出。11月にインターンシップ報告冊子として発行する。報告書に基づき、インターンシップ研修報告会を学科ごとに開催し、研修で得た課題や成長できた事を確認。それを踏まえ、今後の大学の学び、将来のキャリア形成、就職活動の面接やエントリーシートにどう生かすかを助言・指導する。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	進路就職インターンシップ担当職員が研修期間に複数の研修先を訪問し、状況を観察する。研修先の担当者から申し出られた課題や学生からの相談があれば、適宜対応している。また学生が研修中に課題があれば、すぐに連絡・対応できるように進路就職課の体制を整えている。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	1.研修先に本学が独自に作成した評価票により評価していただいている。2.学生は研修中に日報を書き、また、研修先の担当者にコメントをいただいた上で自己点検させている。
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前授業の初回に志望動機を書かせ、個別面談で確認している。事前授業の最後にレポート提出と発表を行い、学生の意識を確認・評価している。研修中は研修先担当者に評価表で評価して貰い、大学への返送を依頼している。研修後は、報告書作成と報告会開催により、どう意識・行動が変容したかを評価している。また社会人基礎力(3能力/12能力要素)のうち重要点はどこか。研修後に自己点検させ、報告書に書かせている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	受入先の都合により5日間連続することが難しい場合は、合計して5日間以上を確保するようにしている。
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修日は連続または総計で5日間を設定している。夏期休暇中で試験・補講が無い期日を大学側で提示し、受入先と学生が相談した上で期日を決定している。	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素 ⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	研修後に進路就職課のインターンシップ担当職員が研修先を訪問して、課題を聞き取り、次年度の改善につなげている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ授業の準備段階で、進路就職課の担当職員がインターンシップ受入先を訪問し、前年度の報告書を持参した上で、課題を相互に話し合いながら、次の研修の計画と受入体制(受入人数、業務内容、実習地等)を確認している。大学からは教育的目的、学事状況の説明を行い、また、受入先に研修中の評価票記入と学生の日報へのコメント依頼をし、相互理解の上で実施できるように協働して進めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	以下のURLよりお進みいただき「インターンシップ詳細(シラバス)」(PDFファイル)にてご確認ください。 http://www.shokei.jp/career/information/detail.php?p=61
問い合わせ先	大学等名	尚絅学院大学
	担当部署名	進路就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	中村 節子
	電話番号	022-381-3313
	メールアドレス	shushoku@shokei.ac.jp